二〇一三年四月一六日（参加者一六名）

鯉跳ねて水面煌めく新樹光　せいじ
花屑を吸ひ込む鯉の深呼吸　〃
たもとほる桜蕊降る池塘かな　〃
蒲公英の絮風待ちに揺れにけり　〃
展けたる武庫川堤風薫る　〃
外つ国の漂流物や磯遊び　こすもす
春愁や次のバスまで一時間　〃
女坂登りたる先余花にあふ　〃
延命根撫づる遍路のご一行　〃
教へあふ春スカーフの結び方　〃
青深む土手に蒲公英黄を散らす　わかば
花屑の影を過りて鯉泳ぐ　〃
洩れ日射す樹下のベンチに春惜しむ　〃
推敲の句帳に落花また落花　ひかり
残り鴨鳴けば寄りくる連れのをり　〃
餌にあらず花屑を呑む鯉の口　〃
かくれんぼ花下のベンチがお気に入り　菜々
水底の影ひきつれて花筏　〃
泣き止まぬ子の背に肩に花の散る　〃
たゆたへるペットボトルや春の川　宏虎
ホバリングしてをる虻や春花壇　〃
桜しべ降る行厨のベンチかな　ぽんこ
鯉跳ねて散らす水面の花筏　〃
水温む鯉はダイブをくりかへし　小袖
鳩群るる池の汀に春惜しむ　〃
伏流の小川となりて花筏　よし子
まさおなる空に高舞ふ落花かな　〃
花吹雪ベンチの人の背に肩に　よう子
老木に深き傷痕花吹雪　〃
川名札囲み堤の菜の花黄　きづな
駆け上がる武庫川堤風光る　〃
鯉はねし波紋に揺らぐ落花屑　有香
甲羅干す亀どち眺め春惜しむ　百合
蹴り上ぐるボールに舞ひし春落葉　満天

定例句会みのる選

二〇一三年四月一六日（参加者一六名）